

**製品名: CtBP1 (リン酸化 Ser422) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04515**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CTBP1
別名	CTBP1; CTBP; C-terminal-binding protein 1; CtBP1
遺伝子 ID	1487.0
SwissProt ID	Q13363
免疫原	抗血清は、ヒト CtBP1 の Ser422 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 388-437

**背景**

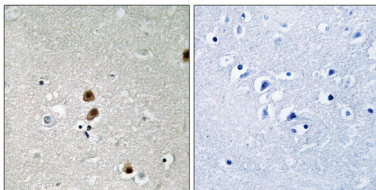
この遺伝子は、アデノウイルス E1A タンパク質の C 末端に結合するタンパク質をコードしています。このリン酸化タンパク質は転写

抑制因子であり、細胞増殖中に役割を果たしている可能性があります。このタンパク質と、2番目の密接に関連した遺伝子であるCTBP2の産物は二量体化できます。両方のタンパク質は、発生中の遺伝子発現の調節に関するポリコムグループタンパク質複合体と相互作用することもできます。この遺伝子からの転写物の選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq提供、2008年7月]補因子: NAD。E1Aとの効率的な相互作用に必要です。補因子の結合により、構造変化が誘導されます。機能: ゴルジ体における管状構造と積層構造の平衡制御に関与しています(類似性による)。GLIS2などの多様な転写調節因子を標的とするコリプレッサーです。脱水素酵素活性があります。PTM: ADPリボシル化;細胞がブレフェルジンA(BFA)にさらされると、リン酸化が促進されます。PTM:Lys-428のSUMO化は、E3SUMOタンパク質リガーゼCBX4によって促進されます。PTM:リン酸化のレベルは細胞周期中に制御されているようです。DNA損傷(おそらくATMまたはATRによる)によりリン酸化されます。HIPK2によるSer-422のリン酸化は、プロテアソーム分解を誘導します。類似性:D異性体特異的2-ヒドロキサン酸脱水素酵素ファミリーに属します。サブユニット:アデノウイルスE1Aタンパク質、ELK3、およびCTIPのC末端と、それらのコンセンサスマチーフP-X-[DNS]-L-[STVA]を介して相互作用します。CTBP1およびCTBP2のホモダイマーまたはヘテロダイマーを形成できます。FOXP2、HDAC4、HDAC5、およびHDAC9と相互作用します。GLIS2と相互作用するが、GLIS1およびGLIS3とは相互作用しない(類似性による)。FOXP1、HIPK2、PNN、NRIP1と相互作用する。ZFHX1BおよびWIZと相互作用する。エプスタイン・バーウイルスEBNA3およびEBNA6と相互作用する。

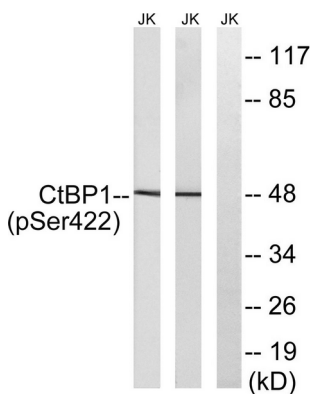
## 研究分野

WNT、WNT-T細胞、Notch、がんにおける経路、慢性骨髄性白血病、

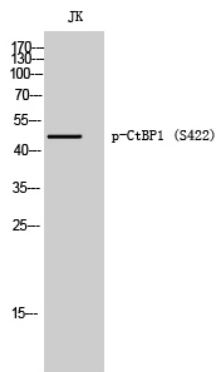
## 画像データ



CtBP1 (リン酸化Ser422)抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF 20 ng/ml 30分処理したJurkat細胞とUV 15分処理したJurkat細胞のライセートを、CtBP1 (リン酸化Ser422)抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 CtBP1 (S422) ポリクローナル抗体を用いた JK 細胞のウェスタンブロット解析